

はじめに

松江市は国宝松江城を有する古い城下町です。古事記などの神話の舞台でもあり、かつてこの町で過ごしたラフカディオ・ハーン（小泉八雲）は「神々の国の首都」と呼びました。今年は国際文化観光都市70周年を迎え、今後、さらに世界に開かれた街を目指したいと考えています。

本市にはアイルランド、アメリカ、インド、韓国、中国、フランスの6人の国際交流員（CIR）が勤務しており、友好都市等との交流やインバウンド、経済交流、多文化共生事業など、さまざまな場面で活躍しています。しかし、2020年度はいつもと大きく違う年になりました。言うまでもなく新型コロナウイルス感染拡大の影響です。通常であれば、自国文化を紹介する講座や海外からの来客のアテンドなどで飛び回るところですが、予定表が白いままの日々が続きました。

そんな中で彼らが行き組んだのが動画による文化紹介でした。これまでも、学校や公民館などからの依頼で行う出前講座のほかに、各自で内容を考える自主企画講座を開催していましたので、これを動画でやってみよう、というものです。「国際交流員ワクワク動画」と題し、企画から撮影、編集、字幕の作成まで、全てCIRが自分たちで行っています。



アイルランドのハロウィンを体験（動画より）



各国の料理も紹介しています（動画より）

楽しく、自由に

動画作成の企画が持ち上がった当初は、できる範囲で少しずつやってもらえば構わないと考えていたのですが、CIR本人たちは「2週間に1本作りたい」と宣言、途中で間に合わなくなるのでは？という担当職員の心配をよそに、動画作成を続けています。動画はYouTubeで配信しているほか、地元のケーブルテレビでも定期的に放映されています。

動画作成が続けられたのは、CIRが協力して、なにより自分たち自身が楽しみながら自由に作っていることが



打ち合わせ中のCIR

ポイントだと思います。企画のためのミーティングや事前打ち合わせ等も本人たちだけで行っており、担当職員は、相談や質問があればもちろん答えますが、内容にはできるだけ口を出さないようにしています。事前に聞くのはテーマや概要だけということも多く、撮影・編集も本人たち任せのため、動画公開前の最終チェックの時に、担当職員も一視聴者として内容に驚いたり楽しんだりしています。

松江市は同規模の自治体と比べ CIR の人数が多いのではないかと思います。さまざまな国の CIR がいることで内容がバラエティ豊かになりました。さらに、職場も近く、日頃から交流の多い島根県の CIR が友情出演してくれたこともあります。



中国版の「ラジオ体操」に挑戦（動画より）

動画における講師役はもちろん CIR ですが、生徒役も CIR ですので、それぞれの文化の違いも感じられます。「欧米圏」、「アジア圏」などとひとまとめにしてしまいがちですが、動画を見ていると、当たり前のことながら、国によって同じこともあるけれど違うこともあるのだな、というのがよく分かり、楽しい仕上がりになっているのではないかと思います。



みんなでクリスマスの紹介（動画より）



和服を着て、各国の正月・年越しについて紹介

「with コロナ」の挑戦

動画配信としたことで、これまで講座を開催した際に聞かれた「申し込みたいけれど時間が合わない」、「定員オーバーだった」といった声にもお応えでき、より多くの方に見ていただけるようになっていると思います。また、外国語字幕もいれているので、松江市に住む外国人住民、さらには海外の人々にまで見ていただけるようになりました。

一方で、直接会うことの意義も、決して少なくありません。CIR の出前講座も感染防止に配慮しつつ徐々に再開し始めましたが、特に小学校では、さまざまな行事が中止や縮小になる中、CIR との交流は気分転換になったようで、CIR 本人たちも、子どもたちが例年より楽しんでくれていることを肌で感じたようです。

2020 年度は、さまざまな事業が困難になる中で、「with コロナ」の時代にあわせて、新たな CIR の活動の形を見つけることができたと思います。4 月には動画配信 1 周年、CIR は新しいチャレンジも考えているようです。みなさんも、是非一度、松江市国際交流員ワクワク動画をご覧ください。



こちらの QR コードからご覧いただけます